

たい肥・菜園・花壇クラブ

生ごみからウェルビーイングファームをつくる

横浜あおば脱炭素しみんの会
「食と農のチーム」 チームリーダー

藤浪 恭子

～食と農の循環が見えるまち～

区内で循環できる家庭菜園・市民農園の推進

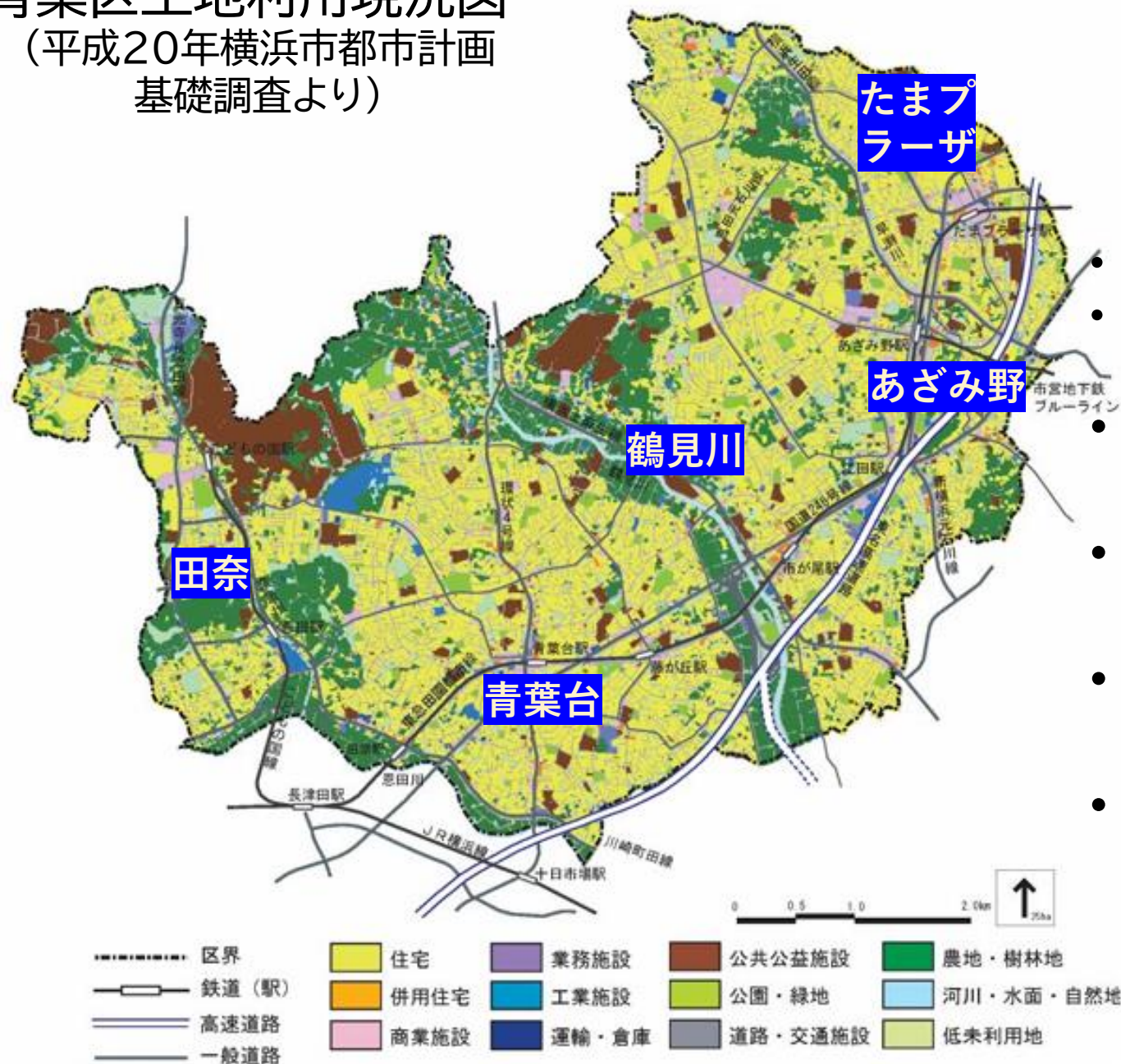
- 市民・区・事業者は連携して、区内で循環できる家庭菜園・市民農園の仕組みを作り、市民はそこに積極的に参加する。
- 市民は区内循環の家庭菜園・市民農園づくりのグループを作る。
- 市・区は空き地を活用し市民農園にし、企業は空き地があれば市民農園として提供する。
- 市内の農家は（市民向けに）野菜の苗などを販売する。
- 区は、区内循環できる家庭菜園の基礎を学ぶ場を設け、市・区は家庭菜園についての相談場所をつくり、アドバイザーを置く。

生ごみの再資源化

- 市・区は生ごみの再資源化促進に向け次の取組みを推進する
 - ✓ コンポストへの補助
 - ✓ 集合住宅へのコンポストの設置
 - ✓ 市民が作ったたい肥を農家・市民農園利用者などで生かすための仕組みづくり
 - ✓ てんぷら油を回収し、バイオエネルギーの原料として活用
 - ✓ 家庭・スーパーなどで出る野菜ごみなどをたい肥化するステーションを設置
- 市民はコンポストを利用して家庭菜園の肥料にし、又は農園で使ってもらう。

青葉区土地利用現況図

(平成20年横浜市都市計画
基礎調査より)



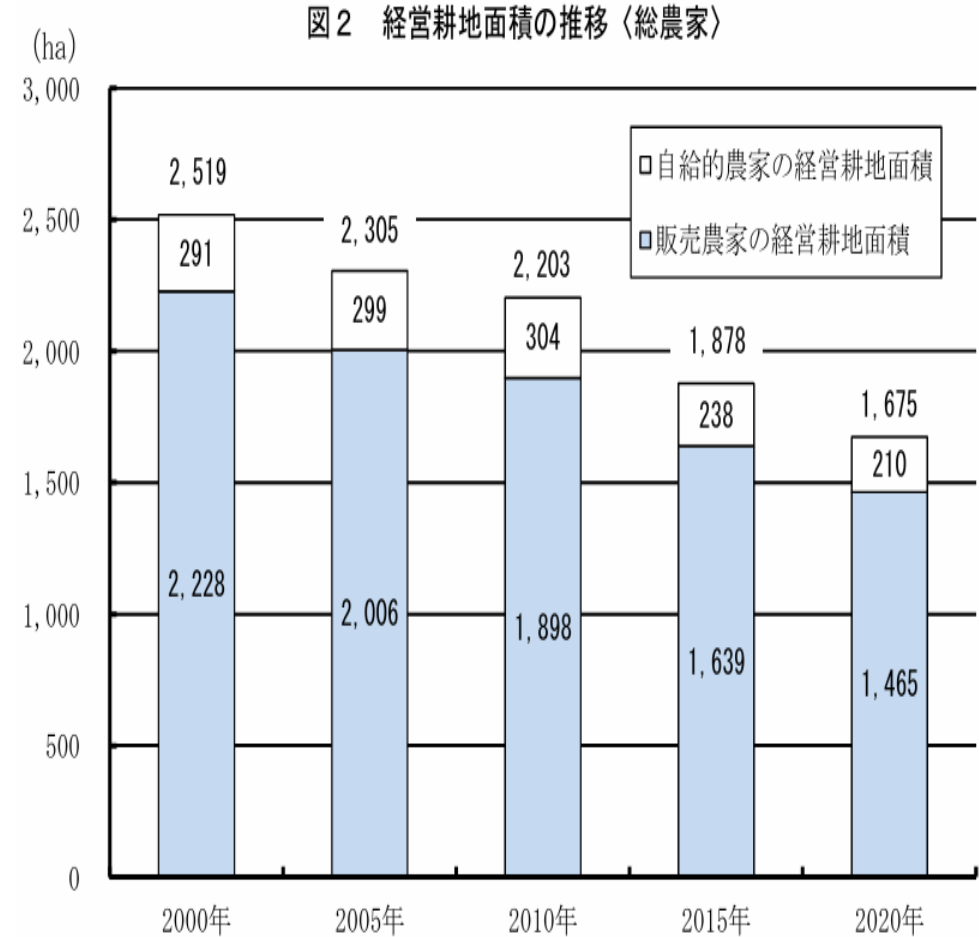
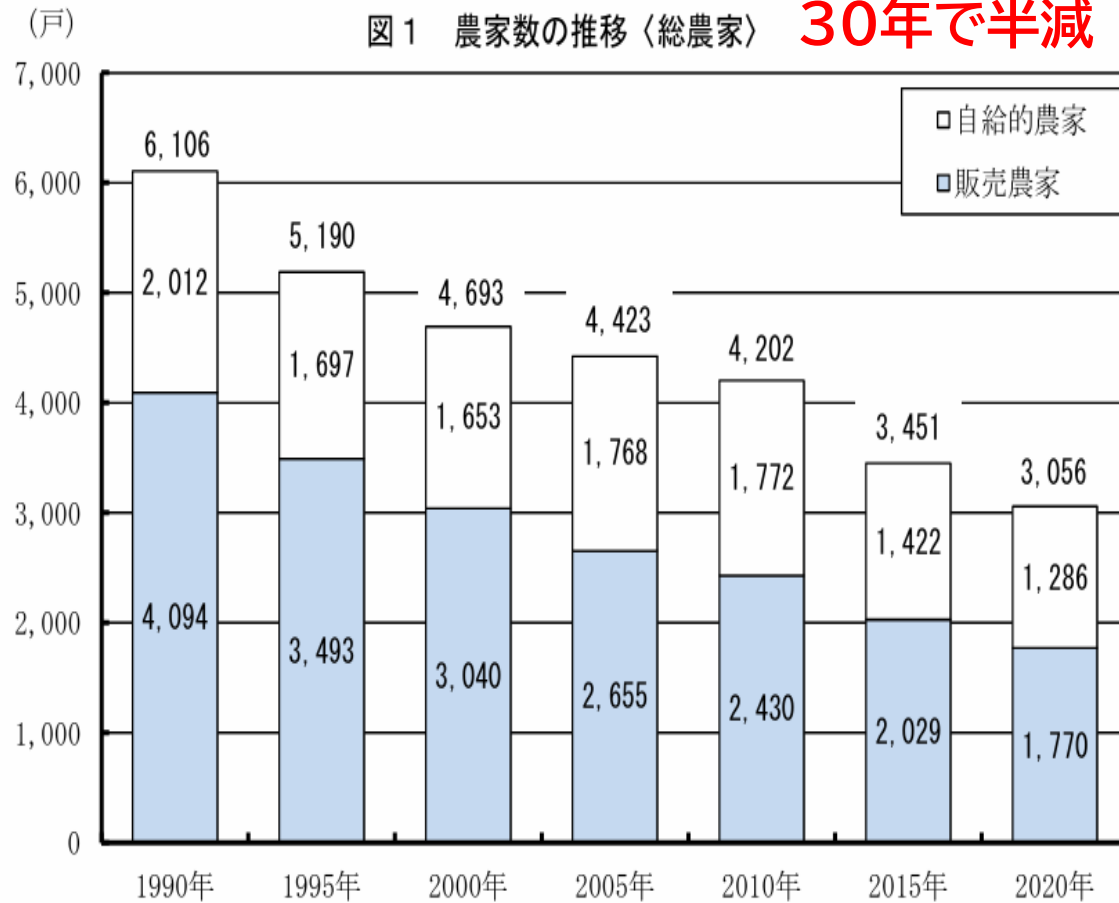
青葉区の特徴 (なるほどあおば2023より青葉区HP)

- 面積 35.06km²(18区中2位)
- 人口 309.4千人 (18区中2位)
- 経営耕地のある農家数 392戸
(18区中2位)
- 経営耕地のある農家の経営耕地面積
168.23ha (18区中4位)
- 田の経営耕作面積
31.99ha (18区中1位)
- 果樹園のある農業経営体数
64経営体 (18区中3位)

横浜市全体の農家数、耕地面積の減少傾向

令和2年横浜市の農業
(2020年農林業センサス農林業経営体調査結果報告)

20年で2/3



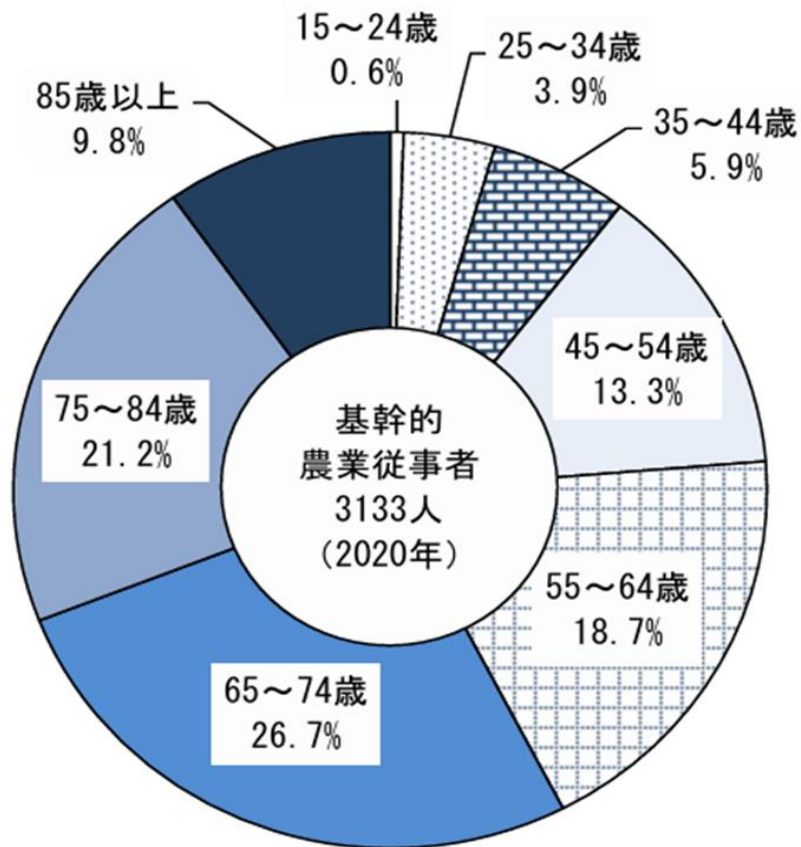
https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/tokei-chosa/portal/kekka/noringyo/nocen2020.files/2020_yokohamanogyo.pdf

以下出典は同じ

自給的農家:販売金額50万円未満、かつ耕地面積30a未満
販売農家:販売金額50万円以上、又は耕地面積30a以上

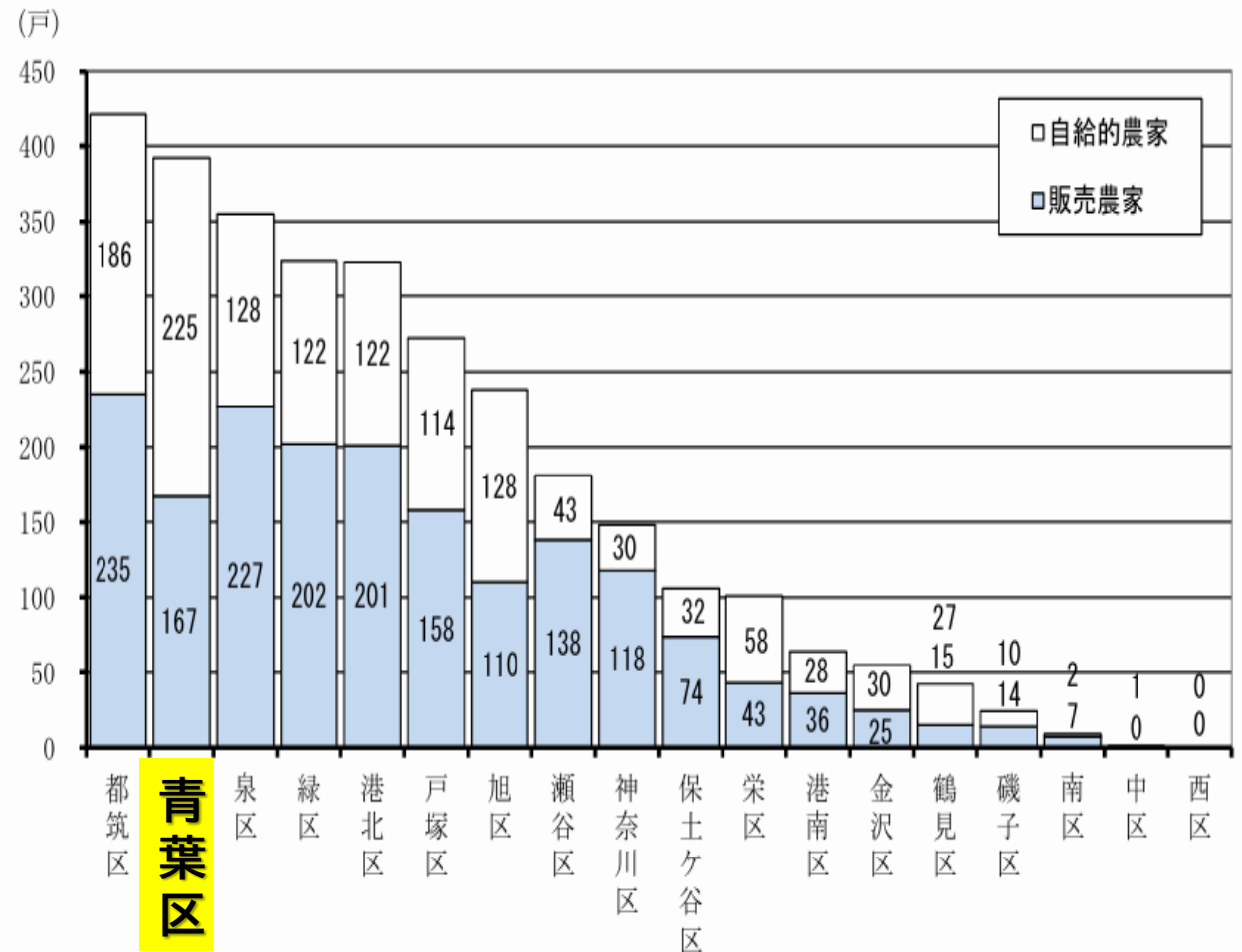
農業従事者の6割近くが 65歳以上

図 10 基幹的農業従事者の年齢別割合〈個人経営体〉



青葉区は、横浜市全体の中で 農地・農業の残された貴重な地域

図 11 行政区別農家数〈総農家〉



食と脱炭素の関わり

耕す	トラクターなどを動かす化石燃料
種子	F1(1代限り)交配のたねを毎年生産。耐病性、多収穫のため。→エネルギーを必要とする。
育てる	化学肥料、農薬、ビニールマルチ(収穫の後廃棄)の利用
収穫	収穫用に機械を動かす。ガソリン等が必要
出荷	段ボール、ビニール包装材の清算のために化石燃料、
運搬	移動に伴う化石燃料
生ごみの焼却	生ごみの80%は水分です。焼却工場で、紙類、プラスチック、特にプラスチック類が混入していて、はじめて焼却可能となる。多量のCO ₂ の排出を必ず伴う。 →生ごみの循環利用が必要

提案するプロジェクトの目標

生ごみからウェルビーイングファームをつくる

第一ステップ

生ごみのたい肥化を進めましょう。

できあがったたい肥は家庭の庭、ベランダのプランター菜園などに肥料として使います。

生ごみのたい肥化を実践する仲間を増やします。

第二ステップ

第一ステップの経験を生かして、青葉区内の農園・農家との連携を深め、また自分たちで家庭菜園づくりに励み、青葉区内に小さな「食の循環」をつくります。

生ごみブレンド プロジェクト (横浜市)

お手元のパンフレットを
ご参照ください

生ごみブレンドプロジェクト
(横浜市HPより)抜粋

用意するもの

【ブレンド素材】生ごみ・土・水

【道具】シャベル

1. 2～3cmにカットした生ごみ+土+水=ブレンド土

フードプロセッサーでも!

土は多ければ多いほど
分解が進むよ

土団子ができるくらいの
水分量だよ



2. たっぷりと上から乾いた土を被せ、バクテリアの分解がスタート

私たちの
出番だね♪

被せる厚さは
3cmくらい!

空気と水ダイスキ♪
ときどき混ぜてね♪



3. 生ごみの形が無くなれば分解終了! 栄養分が含まれたエリー土の完成!

植物を育てるのに
使えるよ



やってみよう！

プランターを使う方法

用意するもの ▶ プランター（排水穴があるもの）

1. 片寄方式



① プレン^ドをつくり
プランターの端に寄せる



② 上から乾いた
土を被せる

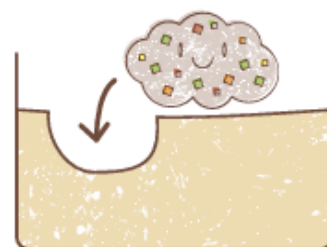


③ 1回目の土の隣に
敷き詰めていく

2. 穴掘方式



① たっぷり土を張る



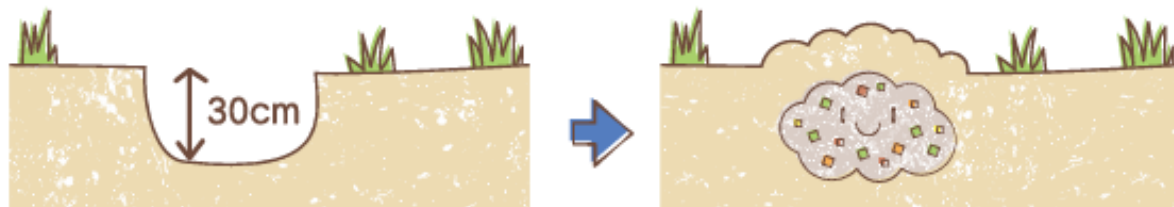
② 穴を掘ってプレ^ンドを投入



③ 上から乾いた土を被せる

お庭や畑で行う方法

用意するもの



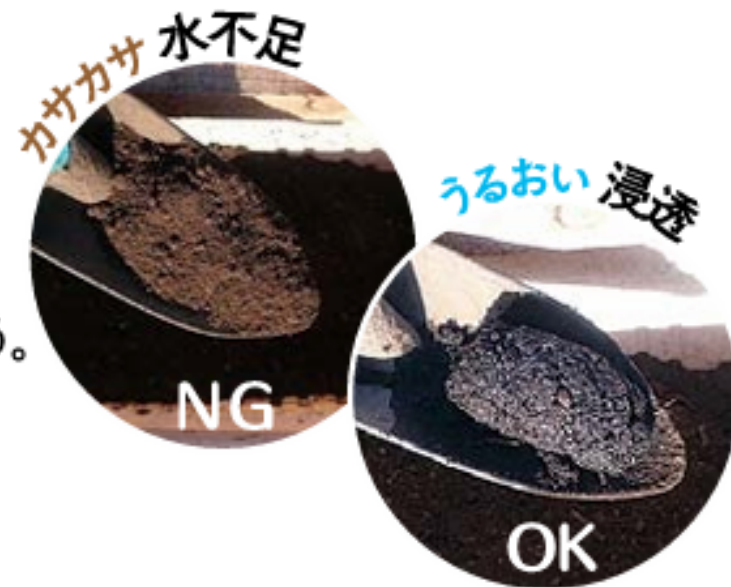
水はけがよく植物が植わっていない場所に30cm程度の深さの穴を掘り、

POINT

◆土で行う際の水分量の目安

50～60%の水分量を維持するようにしましょう。

※握って土団子ができるくらい



◆かき混ぜる頻度

バクテリアは空気が大好きなので、毎日かき混ぜると大変喜びます。

ご自身のペースで、少なくとも、週に1度はかき混ぜてあげましょう。

◆実施に適した場所

ベランダや軒下など直射日光や、雨が降りこまず
適度な水分を維持できる場所が好ましいです。



◆実施に適した土

市販の黒土や、お庭の土、植物を植え終え不要になった土などでも使用可能です。固くなっているものは、ふるいにかけるなどし、細かくサラサラにしてから使いましょう。

身近なたい肥づくりから食の循環づくりを一緒に始めませんか

	日時	場所	催し
1	2025年 1月16日(木) 13時半～15時半	青葉コミュニティテラス (市が尾駅徒歩3分)	「生ごみたい肥化の方法を学ぶ」 横浜市資源循環局から専門家をお招きし、 実演を交え、生ごみたい肥化について説明 を受けます。
1～2月		参加者それぞれ、自宅等にて生ごみたい肥化にチャレンジ	
2	2月16日(日) 13時半～15時半	青葉コミュニティテラス (市が尾駅徒歩3分)	1. 横浜市資源循環局から話題提供 日々の生活とごみの関りについて 生ごみ、プラスチックごみとどうつきあうか 2. ごみ堆肥化の試みの経験を持ちよっては なしあう(懇談)
2～3月		参加者それぞれ、自宅等にて生ごみたい肥化にチャレンジ	
3	3月16日(日) 13時半～15時半 一日程調整一	青葉コミュニティテラス (市が尾駅徒歩3分)	1. 生ごみ堆肥化の試みの経験を基に、青葉区 に「食の循環」を築いていくことについては なしあいます 2. 専門家にも参加いただきます。

是非、皆さん、食と農のチームの活動に参加ください！

**脱炭素青葉づくりを身の回りのできるところから
皆さまと楽しく息長く夢をもって取り組んでいきたいです。**

参加希望の方のお申し込み先や問合せ先等は、
5人目の発表者(葉石さん)からまとめてお話いたします。